

令和2年度
国分寺市市民アンケート調査
報告書

【概要版】

令和2年8月

国分寺市

《調査の目的》

本調査は、市民の生活意識や市の施策に対する考えを把握し、国分寺市総合ビジョン実行計画における各施策の進捗管理の基礎資料にするとともに、市政運営のための貴重な情報として活用することを目的としています。

《調査の概要》

- 調査対象 国分寺市に住民登録している満18歳以上の市民（令和2年3月1日現在）
- 対象人数 3,000人
- 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
（住民基本台帳に登録されている満18歳以上の在住者を、それぞれ世代ごとに6つに区分し抽出）
- 調査方法 配布：郵送
回収：郵送又はインターネット回答
- 調査期間 令和2年4月1日（水）～4月23日（木）
ただし、令和2年5月12日（火）到着分までを有効回答とした。
- 有効回答数 1,282件（回収率：42.7%）
※上記うち、インターネットによる回答は318件

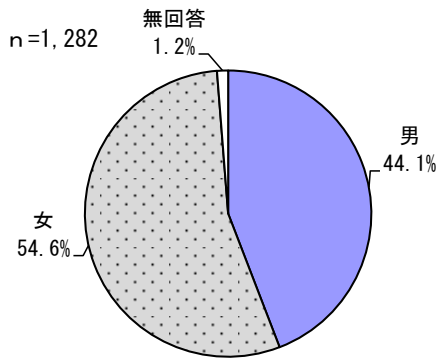
《報告書の表記》

- 調査結果の回答比率はすべて百分率（%）で表しており、その質問の回答者数を基数として、百分率の小数点第2位を四捨五入して算出しています。このため、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は100%を超えます。
- グラフ中の「n」(net)とは、その質問への回答者数を表します。
- 属性別のクロス集計では、属性項目の無回答を除いて集計しているため、属性の各項目の「n」の合計が「全体」と一致しない場合があります。
- 「居住地域」は、『国分寺市都市計画マスタープラン』（平成28年2月）による「生活行動の実態に即した空間の広がり（圏域）や地形等の自然的条件、土地利用の状況等を考慮した5地域」に区分して集計分析を行っています。

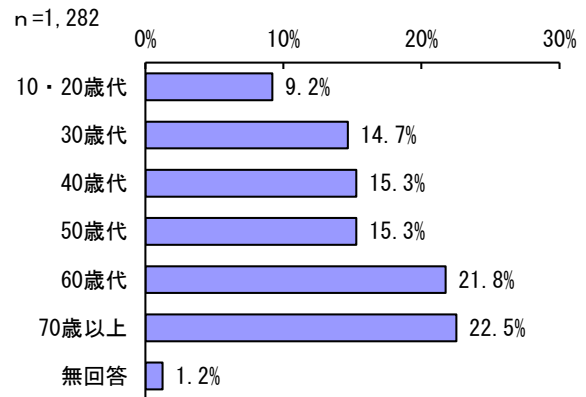
◇ 回答者の属性

(1) 性別・年齢

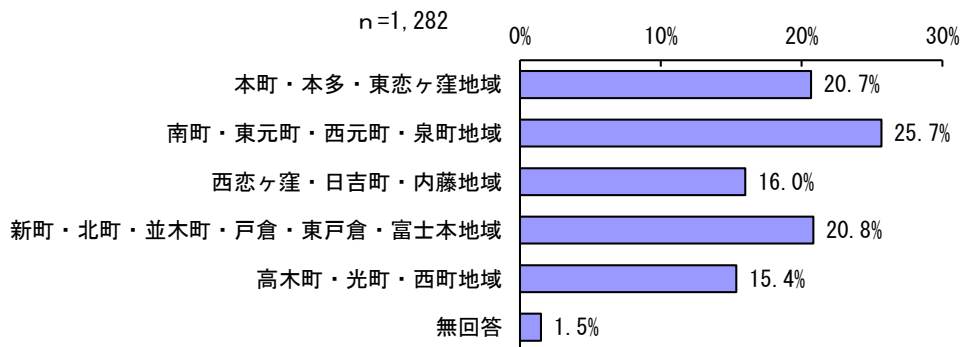
■ 性別



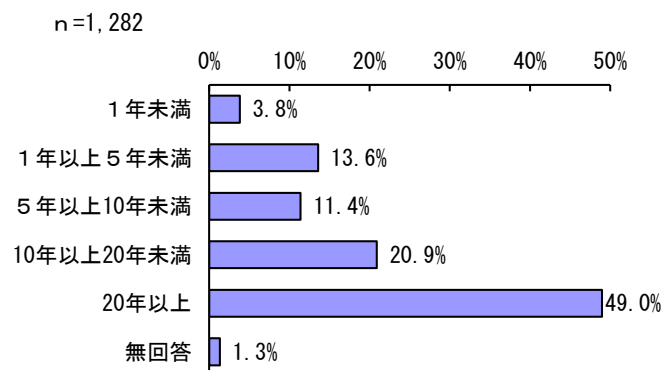
■ 年齢



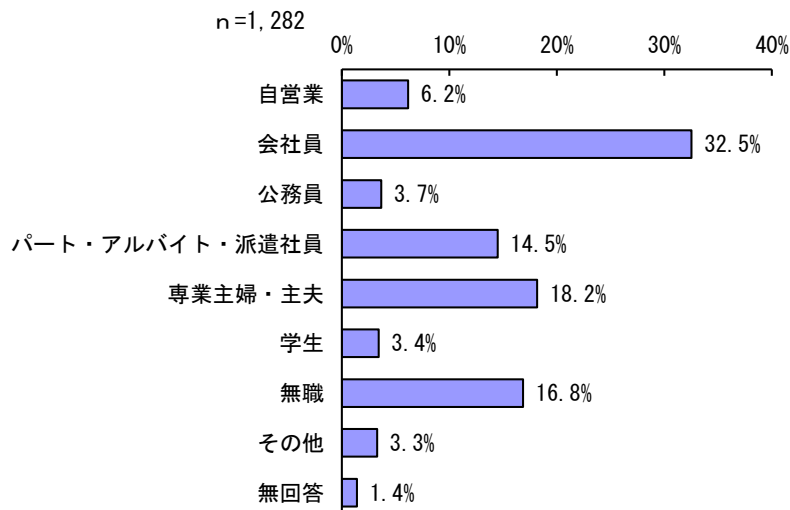
(2) 居住地



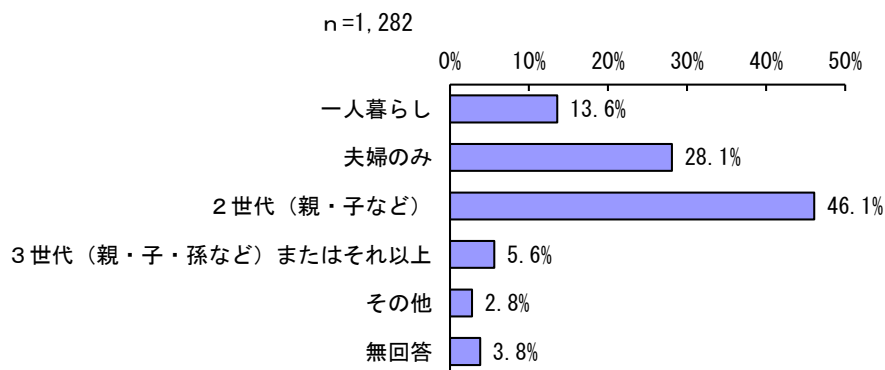
(3) 居住年数



(4) 職業

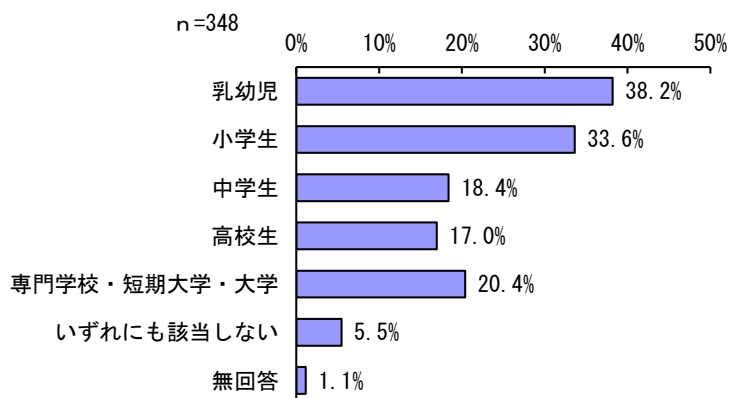


(5) 家族構成

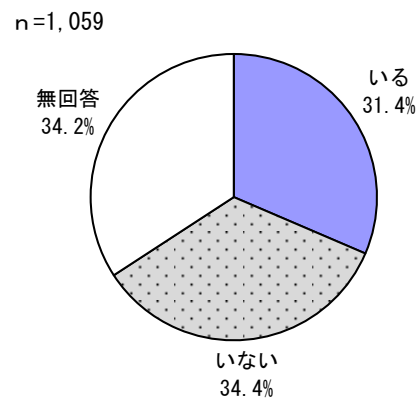


(6) 養育中の子ども・同居する高齢者

■ 養育中の子どもの段階



■ 同居する高齢者

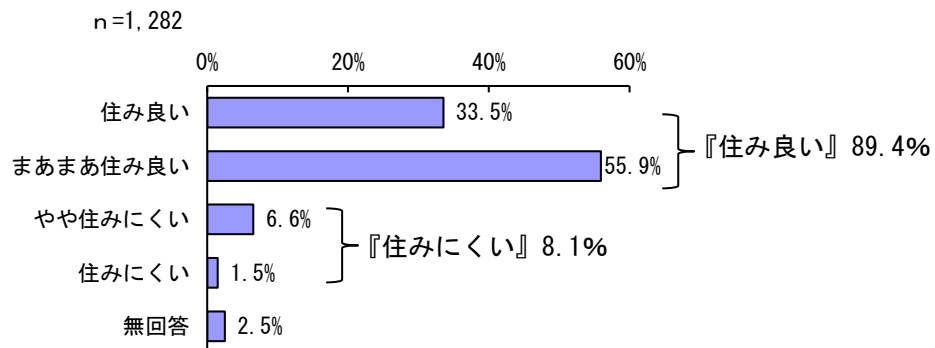


◇住みやすさと定住意向

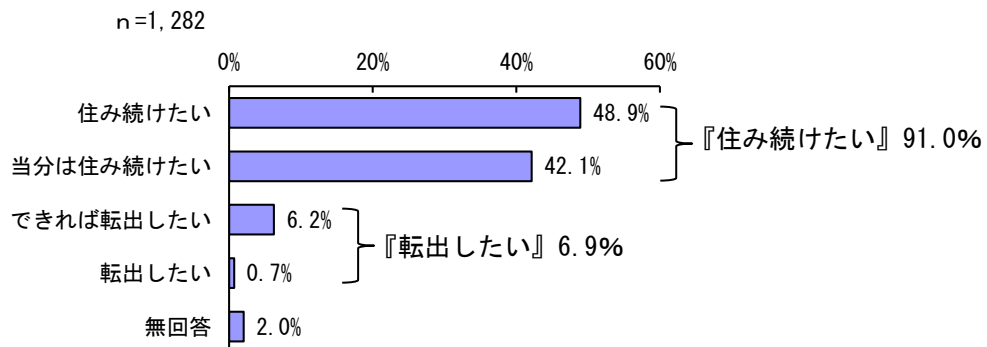
(1) 住みやすさ・定住意向

住みやすさの「住み良い」と「まあまあ住み良い」を合わせた『住み良い』、定住意向の「住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』は、いずれも9割前後と高い割合になっています。

■住みやすさ



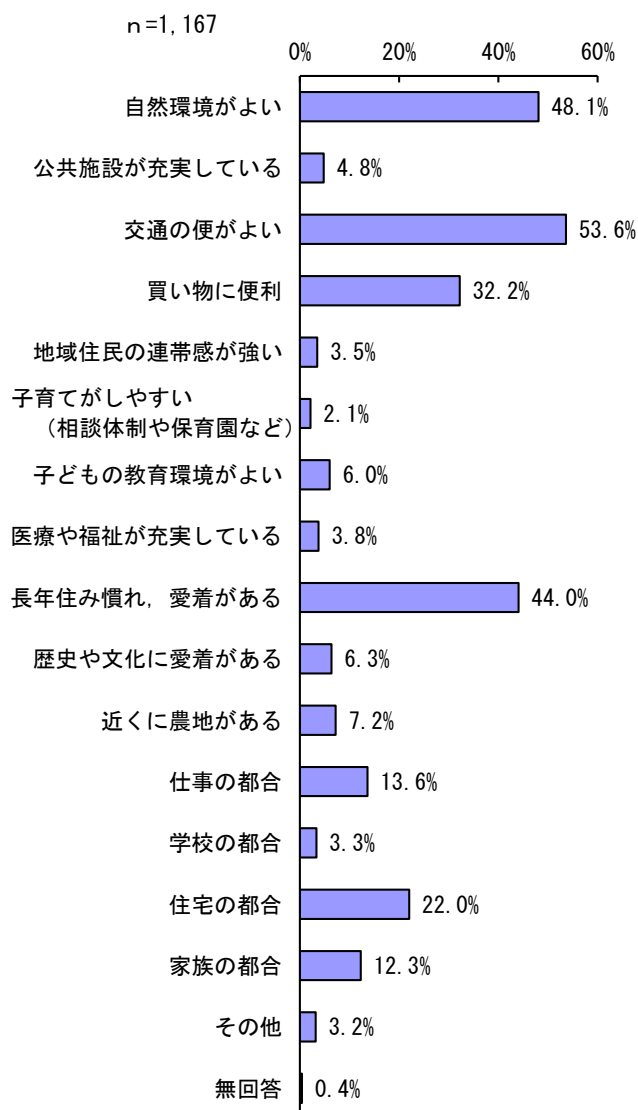
■定住意向



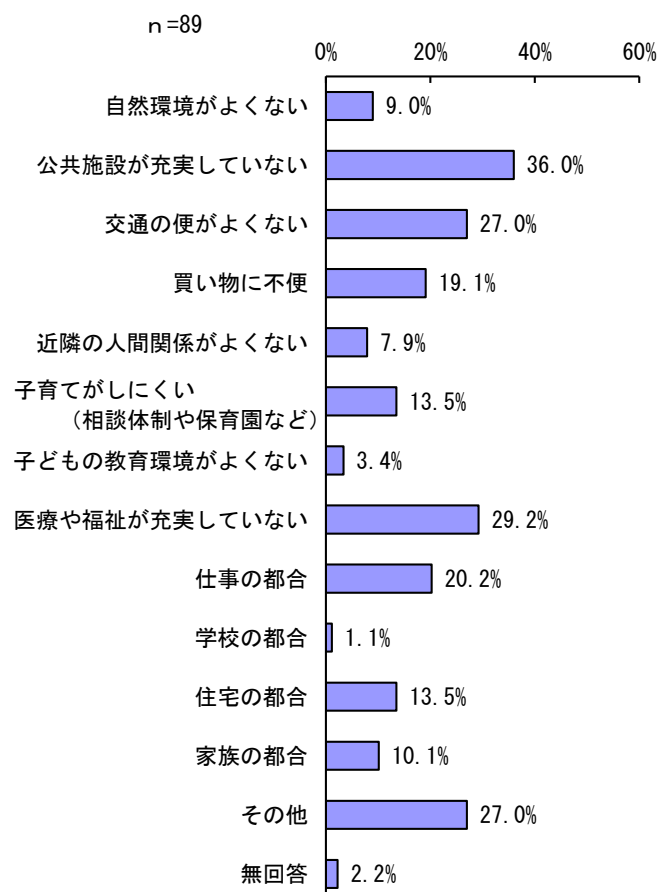
(2) 住みたい理由・転出したい理由

住みたい理由としては、「交通の便がよい」が5割を超えて最も高くなっており、「自然環境がよい」、「長年住み慣れ、愛着がある」も4割を超えています。転出したい理由としては、「公共施設が充実していない」、「医療や福祉が充実していない」、「交通の便がよくない」の順に高くなっています。

■住みたい理由（複数回答）



■転出したい理由（複数回答）

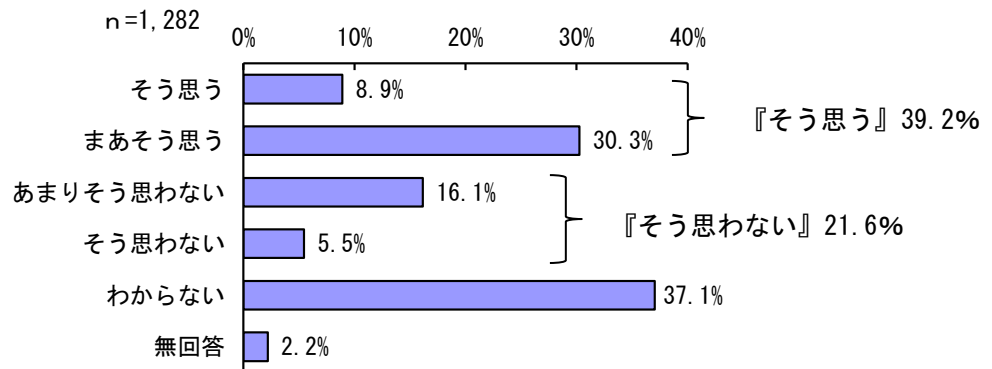


◇ 子ども・学び・文化

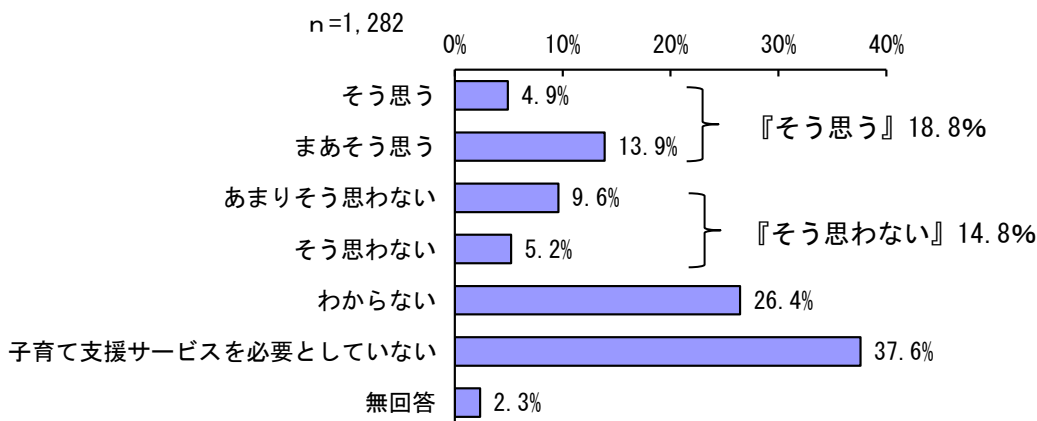
(1) 子育て施設の整備状況・子育て支援サービスの利用状況

身近に子育て施設が整備されていると思うかについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』は約4割となっています。また、必要な子育て支援サービスを利用できていると思うかについては「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』は18.8%となっています。

■子育て施設が十分に整備されていると思うか

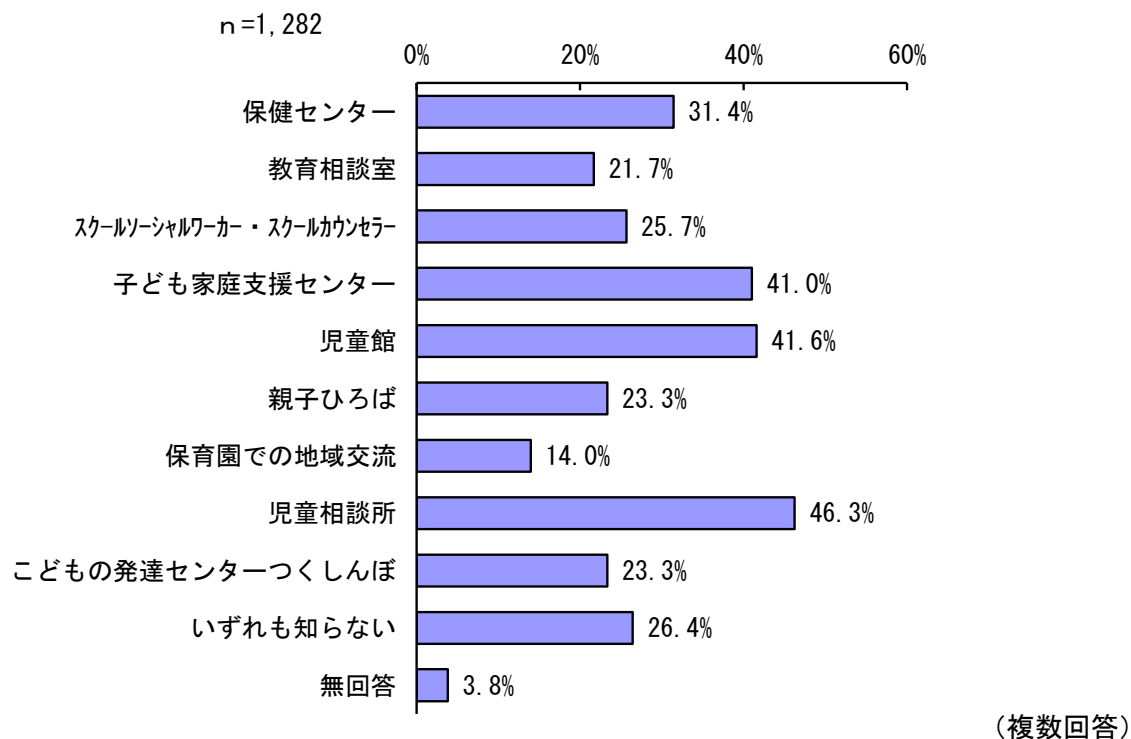


■必要な子育て支援サービスを利用できていると思うか



(2) 子育てに関する相談場所

子どもに関する悩みや心配事の相談場所の認知状況は、「児童相談所」が46.3%と最も高く、次いで「児童館」が41.6%、「子ども家庭支援センター」が41.0%と、4割を超えています。



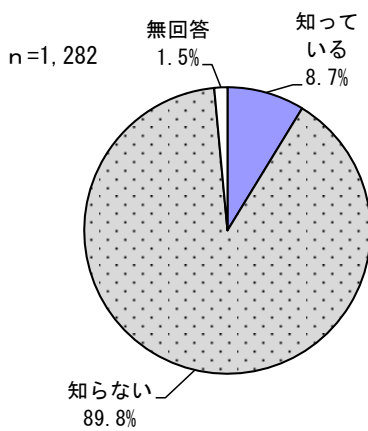
(3) 若者支援*

※若者支援：ひきこもりなど社会生活を送る上で、何らかの悩みを抱える15歳（義務教育修了後）以上40歳未満の方の自立に向けた支援

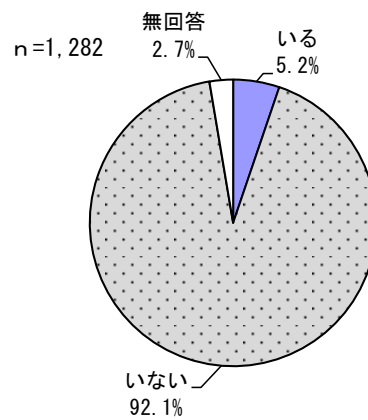
若者支援の認知状況については、「知らない」が約9割を占めています。

身近にひきこもり状態にある若者がいる回答者は5.2%となっており、身近なひきこもり状態の若者の年齢は、「30歳代」が44.8%と4割を超えて最も高くなっています。また、身近にひきこもり状態にある若者がいる回答者のうち、相談先について「知らない」と回答した割合は5割を超えています。

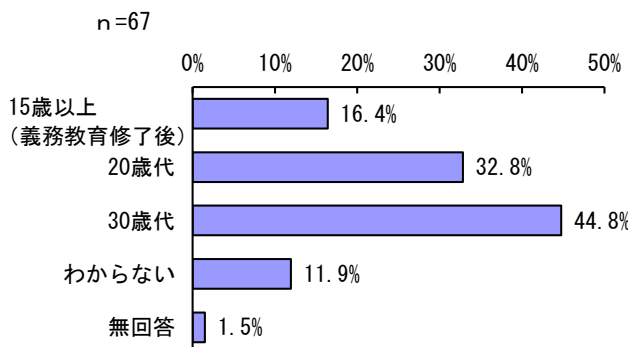
■若者支援の認知度



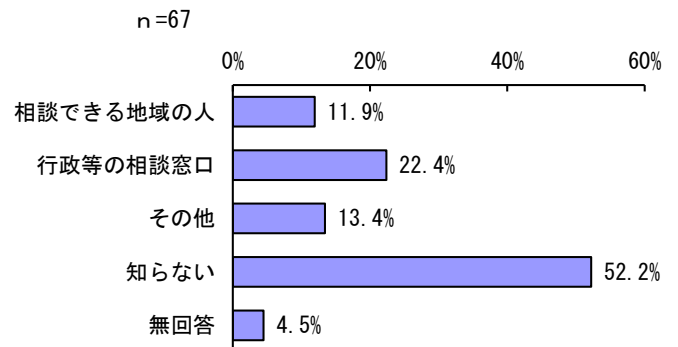
■身近にひきこもり状態にある若者がいるか



■身近な状態の若者の年齢（複数回答）



■身近にひきこもり状態の若者がいる回答者の相談先（複数回答）



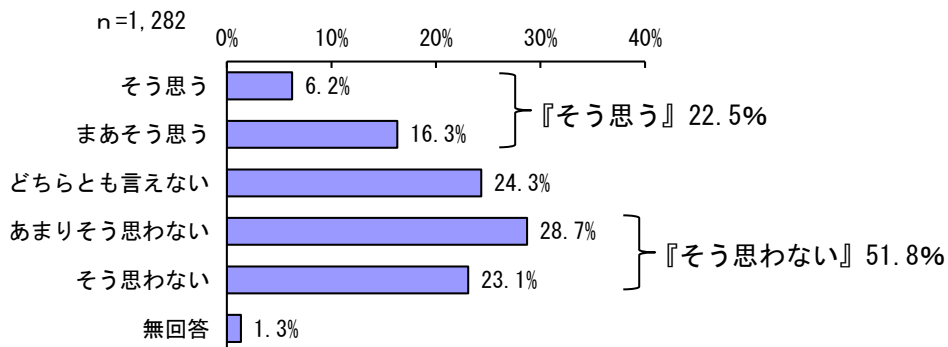
(4) 文化芸術活動・学習体験

市内で文化芸術に触れることができていると思うかについては、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』は22.5%と2割を超えています。

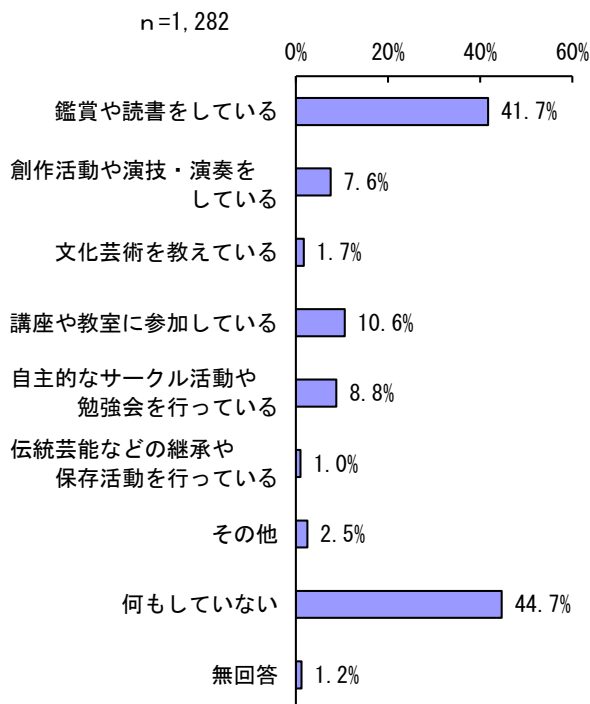
また、過去1年間で行った文化芸術活動の内容では、「鑑賞や読書をしている」、「何もしていない」が4割を超えて高くなっています。

また、過去1年間の学習体験では「読書をした」、「インターネットで調べ物をした」といった自宅で行うことができる学習が約5割と高くなっています。

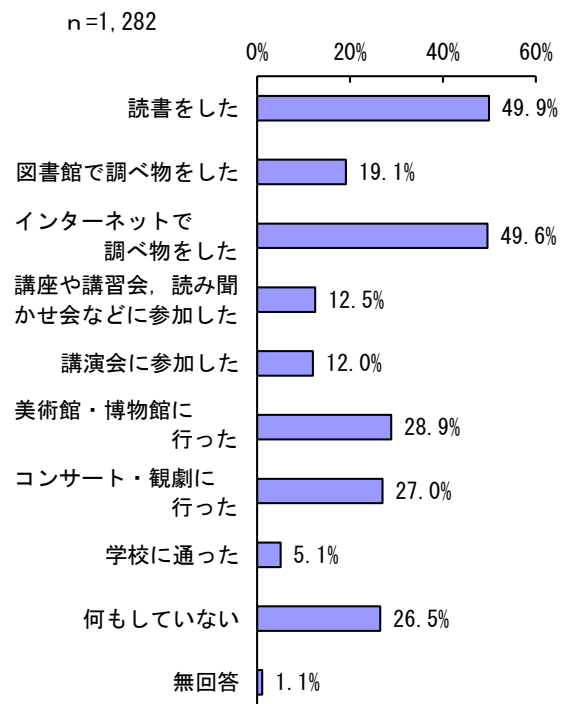
■市内で文化芸術に触れることができていると思うか



■過去1年間の文化芸術活動（複数回答）

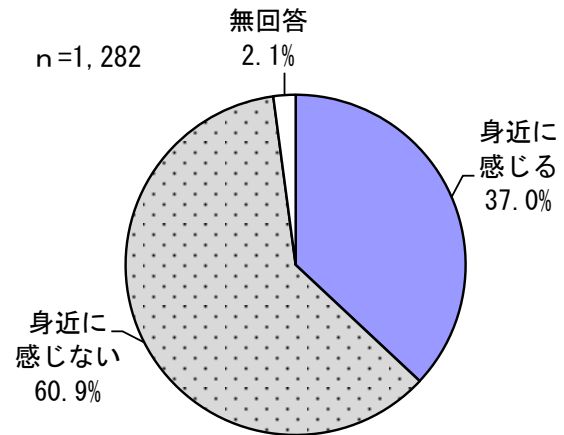


■過去1年間の学習体験（複数回答）



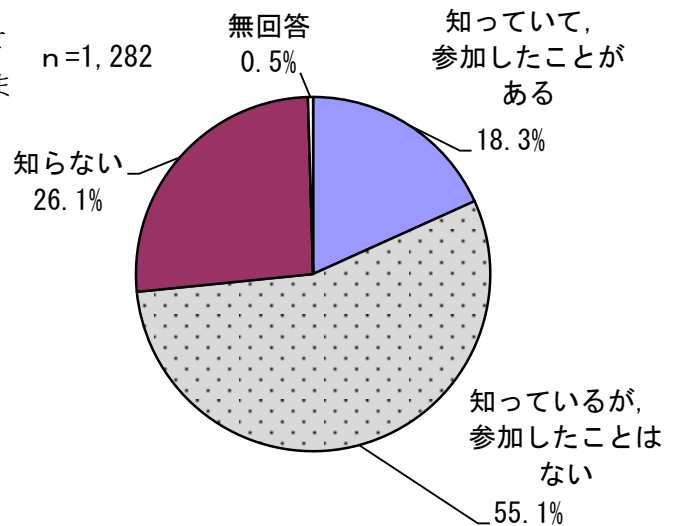
(5) 小・中学校の身近さ

地域の小・中学校を身近に感じるかについて、「身近に感じる」が37.0%となっています。



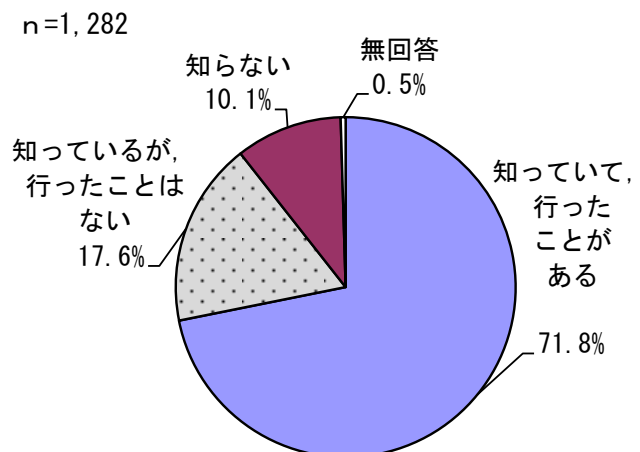
(6) 公民館・図書館の事業の認知度

公民館・図書館で実施している事業の認知度について、「知っていて、参加したことがある」と、「知っているが、参加したことはない」を合わせた、事業を『知っている』は73.4%となっています。



(7) 史跡の認知度

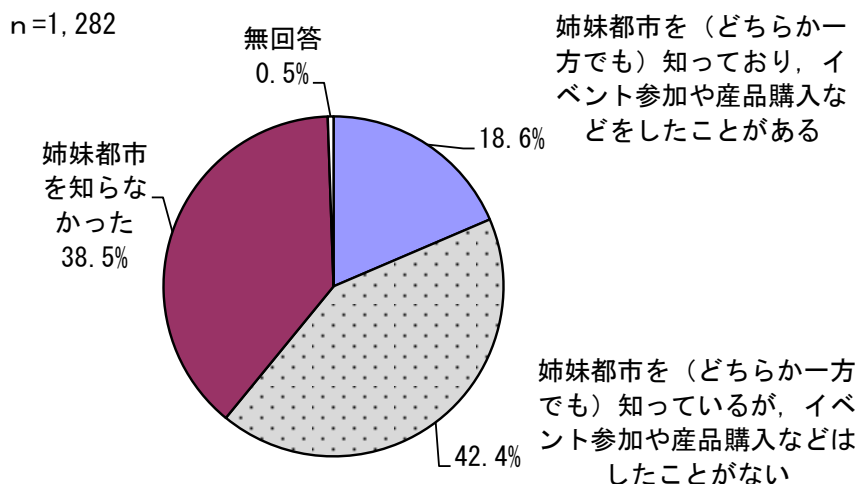
史跡武蔵国分寺跡の認知度について、「知っていて、行ったことがある」が71.8%と全体の7割を超えて高くなっています。



◇ 地域振興

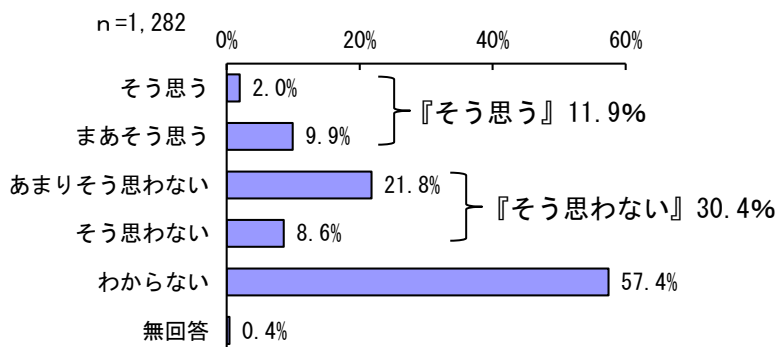
(1) 姉妹都市の認知度

姉妹都市の認知度について、「姉妹都市を（どちらか一方でも）知っており、イベント参加や産品購入などをしたことがある」と「姉妹都市を（どちらか一方でも）知っているが、イベント参加や産品購入などはしたことがない」を合わせた『姉妹都市を知っている』割合は61.0%と6割を超えています。



(2) 外国人が暮らしやすい環境

外国人にとって暮らしやすい環境が整っていると思うかについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』は11.9%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』は30.4%と、『そう思わない』が『そう思う』を大きく上回っています。また、「わからない」は57.4%を全体の半数を超えています。

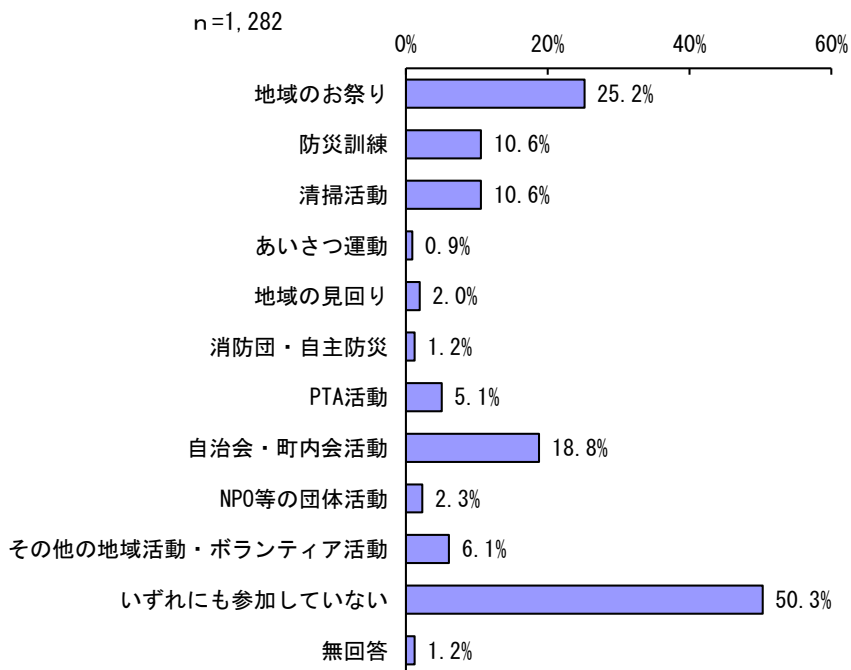


(3) 地域活動への参加

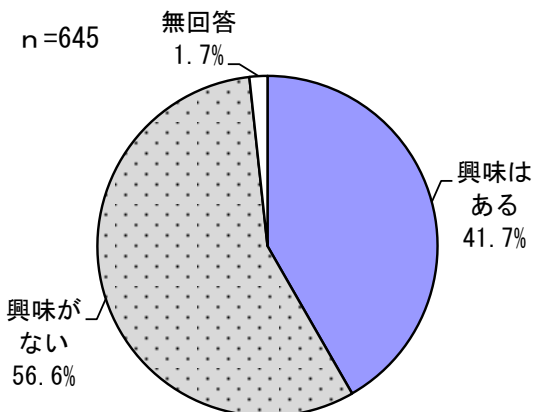
過去1年間に、地域活動に「いずれにも参加していない」人の割合は50.3%と5割を占めています。最も参加されている地域活動は、「地域のお祭り」で25.2%となっています。

また、地域活動に「いずれにも参加していない」人のうち、4割は地域活動に興味を持っていますが、地域活動に参加できなかった理由として、「時間がない」が5割と最も高く、次いで「参加方法がわからない」が4割を超えています。

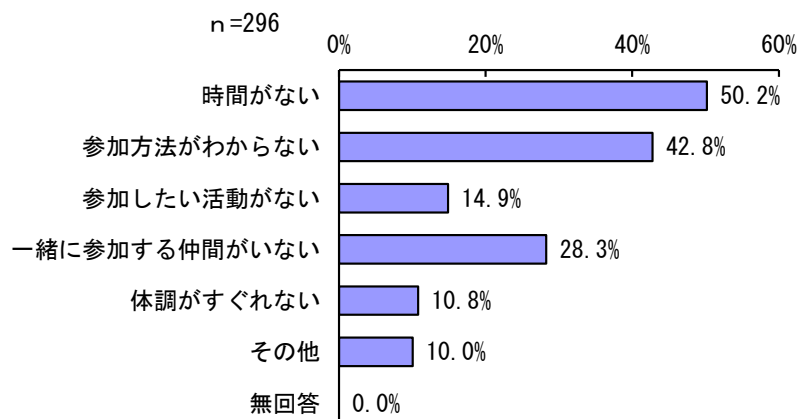
■過去1年間で参加した地域活動（複数回答）



■地域活動に参加していない人の 地域活動に対する興味



■興味はあるが地域活動に参加できなかった理由 (複数回答)

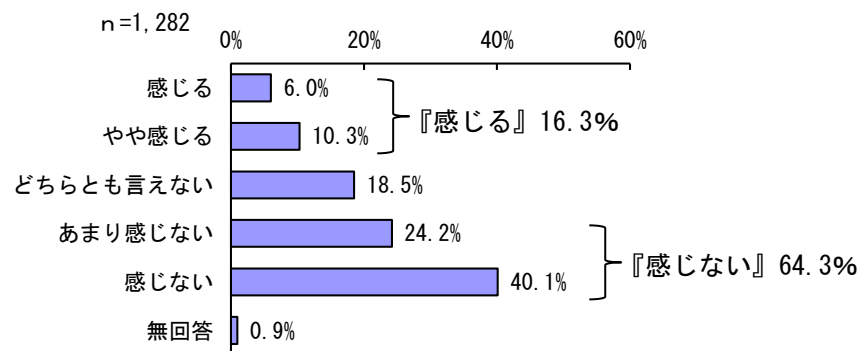


◇ 保健福祉

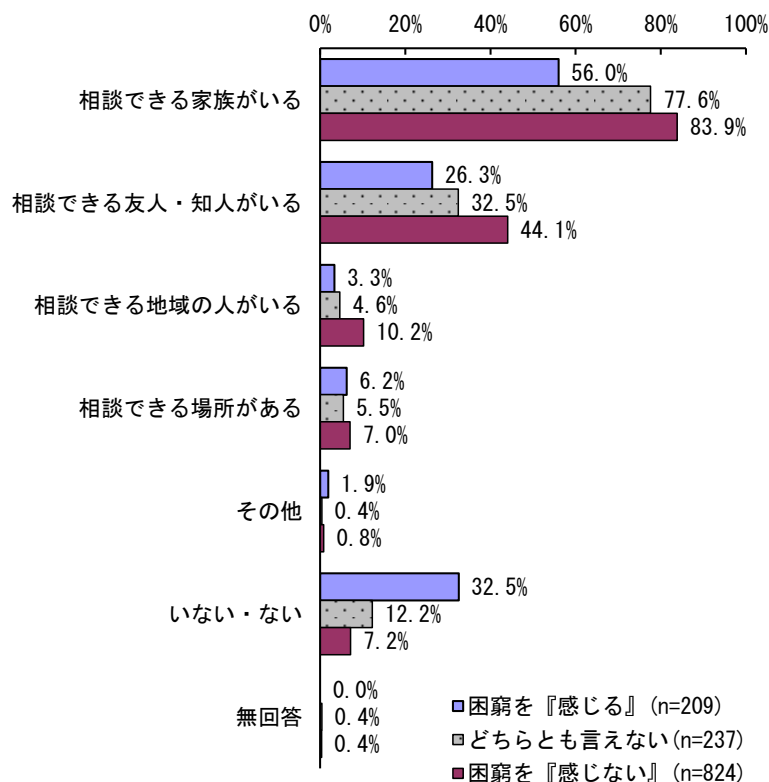
(1) 生活困窮

生活困窮の実感について、現在、生活に困窮を「感じる」と「やや感じる」を合わせた『感じる』割合は16.3%となっています。また、生活に困ったときの相談先について、生活に困窮を『感じる』回答者は、生活に困窮を『感じない』、「どちらとも言えない」回答者よりも相談先がある割合が低い傾向にあり、相談できる相手や場所が「いない・ない」は3割を超えています。

■生活困窮の実感



■生活に困ったときの相談先（複数回答）

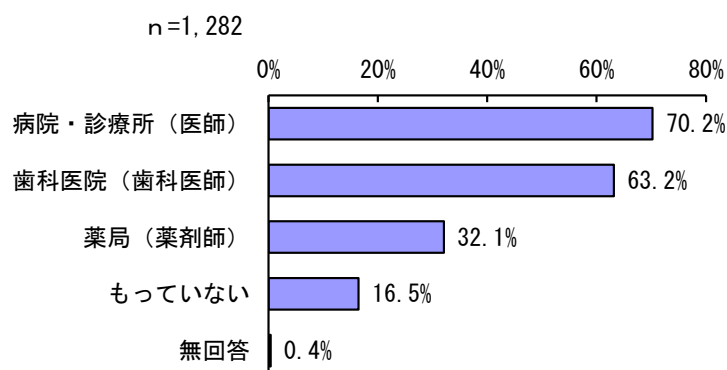


(2) 健康に対する意識

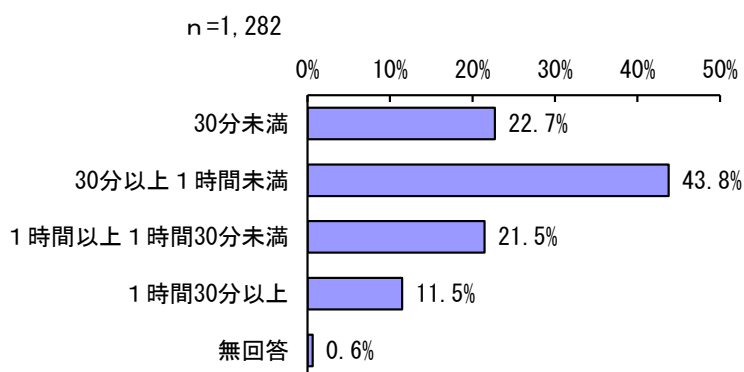
かかりつけ医療機関の有無については、「病院・診療所（医師）」が7割、「歯科医院（歯科医師）」が6割を超えているのに対し、「薬局（薬剤師）」は3割台にとどまっています。

また、1日の歩く時間は「30分以上1時間未満」が43.8%と4割を超え、最も高くなっています。

■ かかりつけ医療機関の有無（複数回答）



■ 1日に歩く時間



◇ くらし・環境

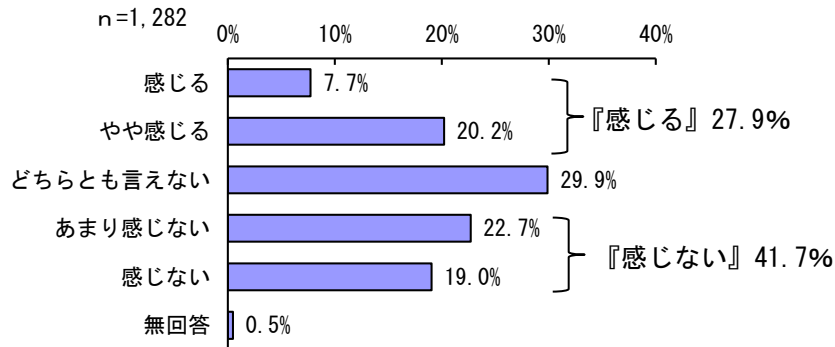
(1) 市内の交通状況

市内の自転車を利用する人の運転・駐輪マナーについて、マナーが守られていると「あまり感じない」と「感じない」を合わせた『感じない』は41.7%と4割を超えています。

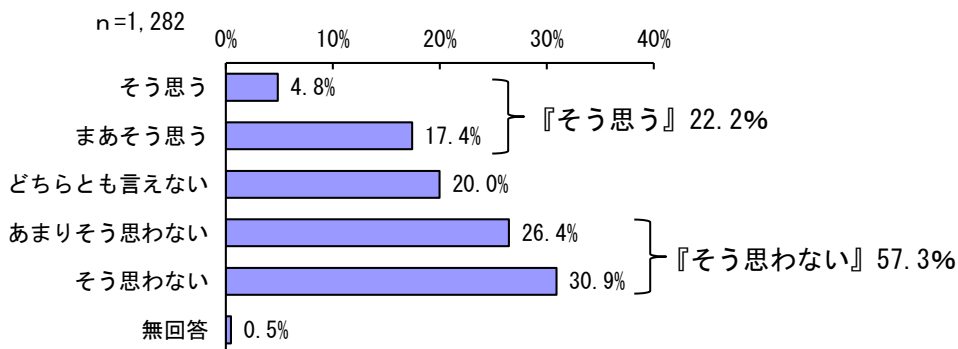
居住地区の道路が安全で快適な環境が確保されていると思うかについて、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』は57.3%と5割を超えています。

市の道路が市の内外や拠点（駅・公共施設など）へアクセスしやすいと思うかについては、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』は39.0%と4割近くを占めています。

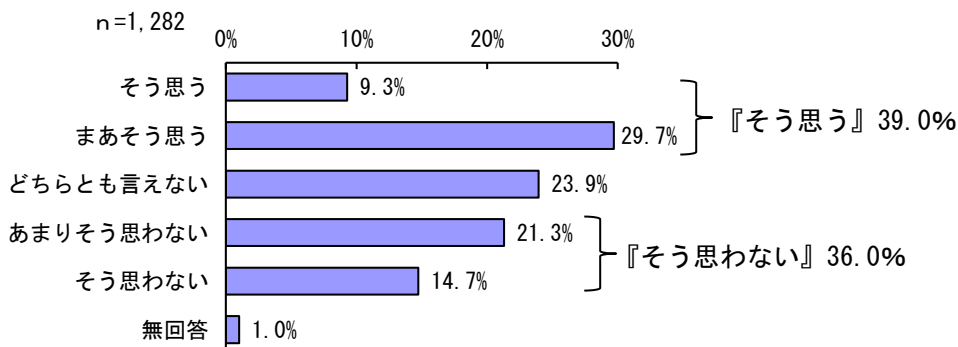
■市内の自転車マナーが守られていると感じるか



■道路が安全で快適な環境が確保されていると思うか

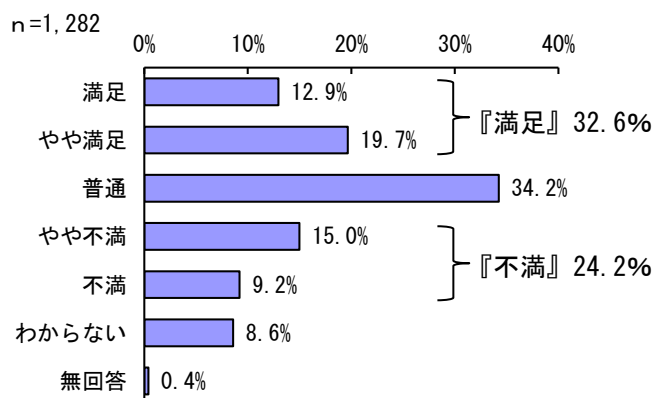


■道路が市の内外や拠点（駅・公共施設など）へアクセスしやすいと思うか



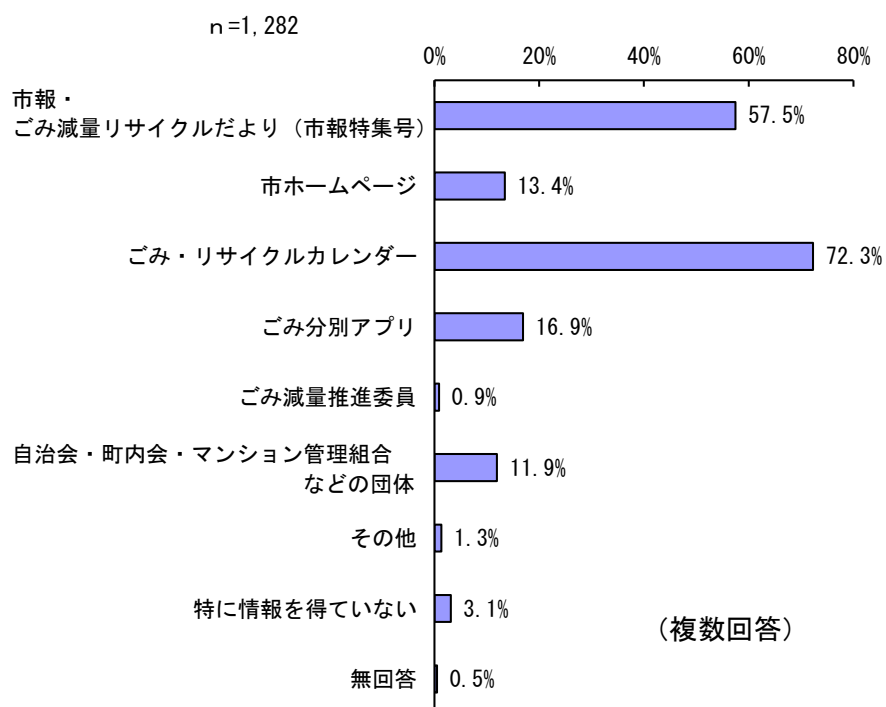
(2) 公園や緑地の満足度

市内の公園や緑地の満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』が32.6%と3割を超えています。



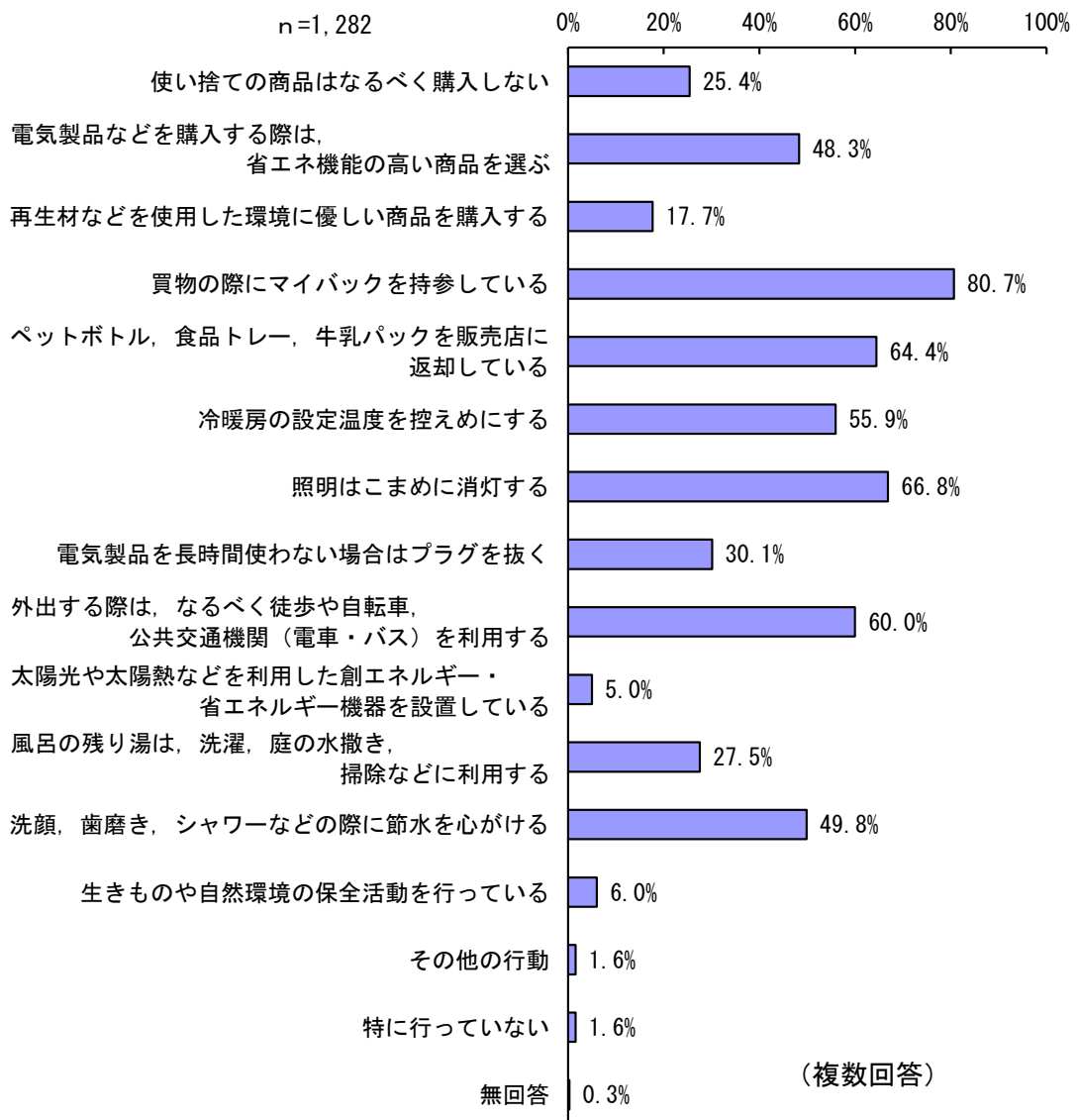
(3) ごみ処理に関する情報入手先

ごみの減量や分別，リサイクルに関する情報入手先は、「ごみ・リサイクルカレンダー」が7割，「市報・ごみ減量リサイクルだより（市報特集号）」が5割を超えており，他の項目と比べ突出して高くなっています。



(4) 環境に配慮した行動

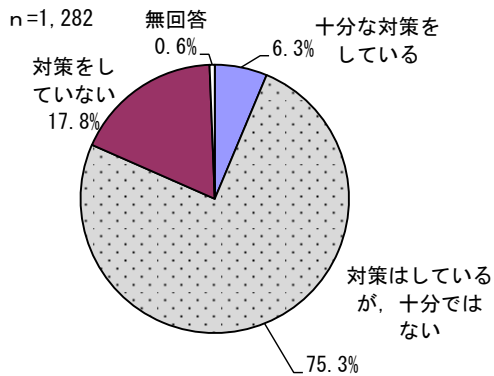
環境に配慮して行っていることは、「買物の際にマイバックを持参している」が8割を超えて最も高く、次いで「照明はこまめに消灯する」、「ペットボトル、食品トレー、牛乳パックを販売店に返却している」、「外出する際は、なるべく徒歩や自転車、公共交通機関（電車・バス）を利用する」といった行動の割合が高くなっています。



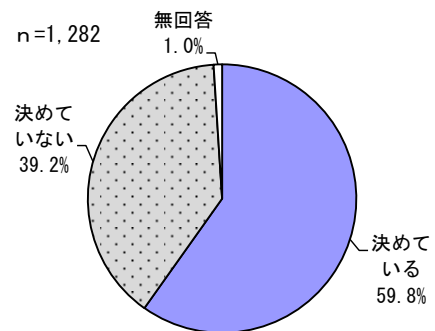
(5) 防災対策

防災対策については、「十分な対策をしている」と「対策はしているが、十分ではない」を合わせた『対策をしている』は8割を超えています。一方で、避難場所を「決めていない」回答者は約4割となっています。

■ 防災対策の状況



■ 避難場所を決めているか

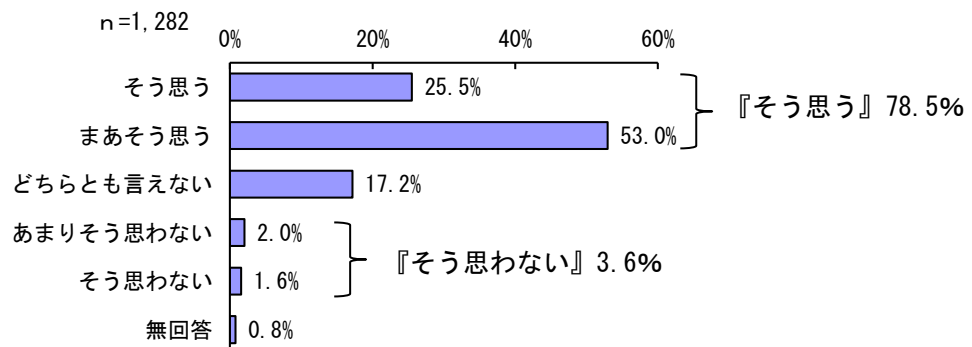


(6) 市の治安状況・消費生活におけるトラブル

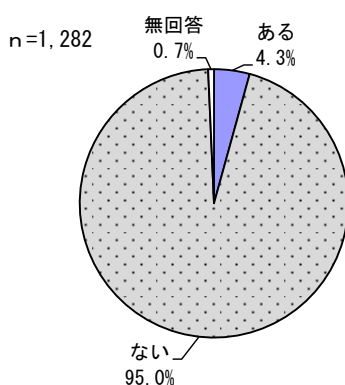
市の治安がよいと思うかについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』は78.5%と高くなっています。

また、過去1年間の消費に関するトラブルの有無については、「ある」の割合は4.3%となっており、「ある」と回答した人のうち、「相談場所や対応する方法がわからなかった」は5.5%となっています。

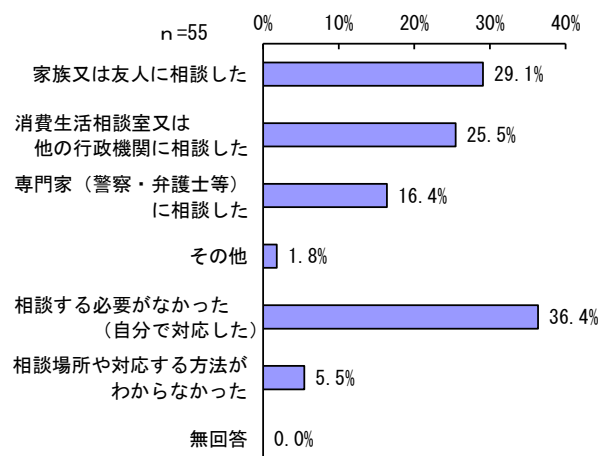
■ 市の治安状況



■ 過去1年間の消費に関するトラブルの有無



■ 消費に関するトラブルの対応方法



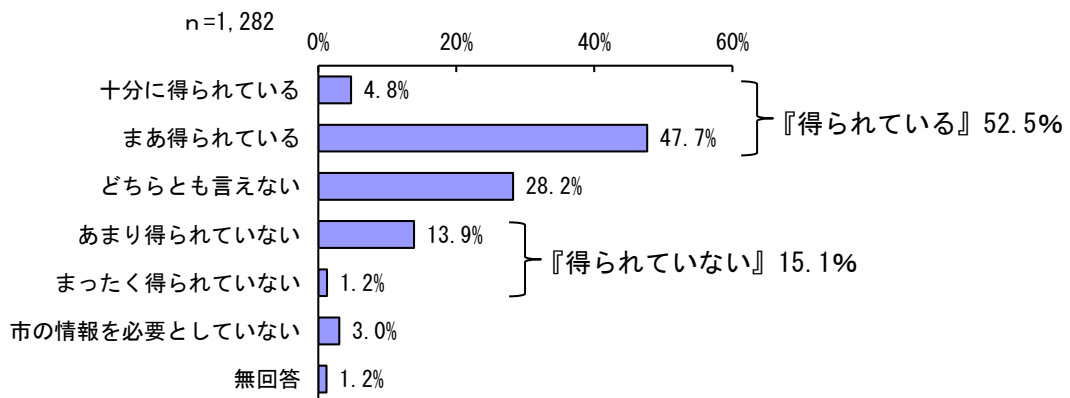
◇ 公共経営

(1) 市の情報の入手状況

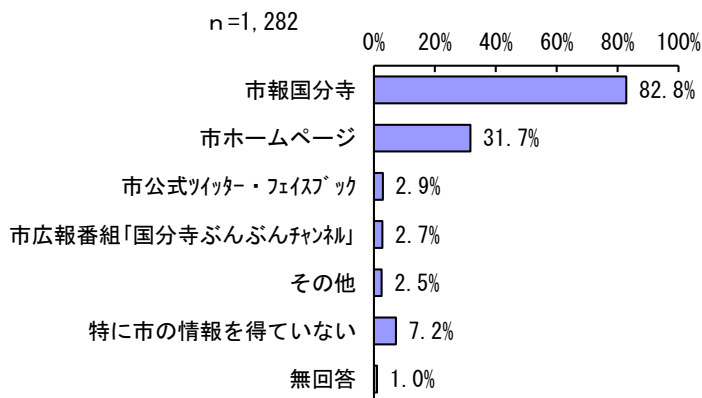
必要とする市の情報を「十分に得られている」と「まあ得られている」を合わせた『得られている』は5割を超えています。

情報の入手先は「市報国分寺」が82.8%と8割を超えて突出して高くなっていますが、そのうち5.8%は「市報国分寺」に『不満』と回答しています。

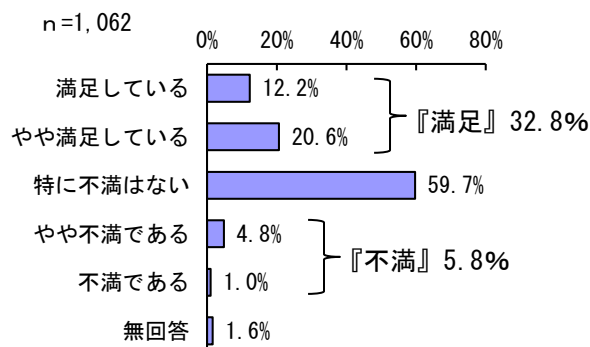
■ 必要とする市の情報が得られているか



■ 市の情報の入手先（複数回答）



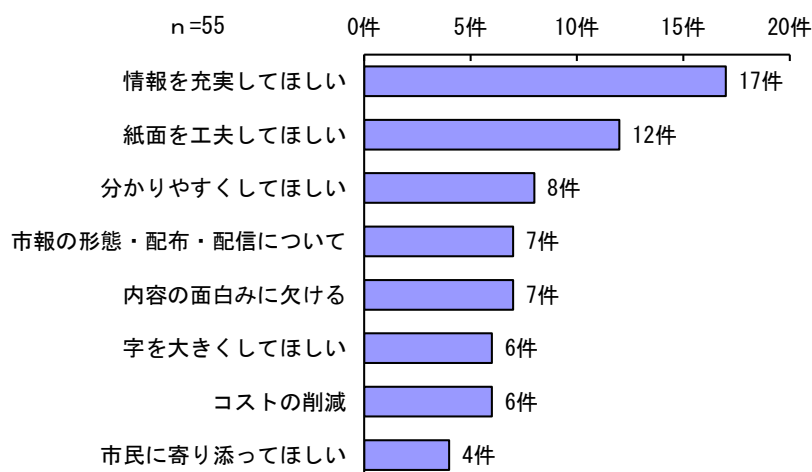
■ 市報国分寺の満足度



(2) 市報国分寺についての意見

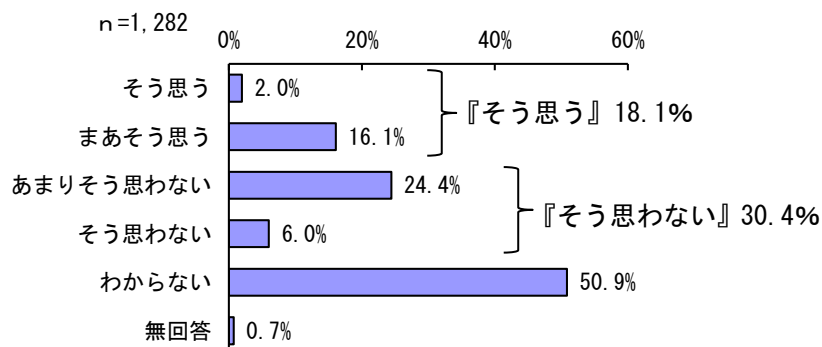
市報国分寺に「やや不満である」、「不満である」と回答した 55 人から、市報国分寺の満足度を上げるための意見が 68 件あり、8 項目に分類しました。

意見の中では、「情報を充実してほしい」が 19 件と最も多く、次いで「紙面を工夫してほしい」が 17 件、「内容の面白みに欠ける」が 7 件、「市報の形態・配布・配信について」と「市民に寄り添ってほしい」が 6 件、「字を大きくしてほしい」が 5 件、「分かりやすくしてほしい」と「コストの削減をしてほしい」が 4 件と続いています。



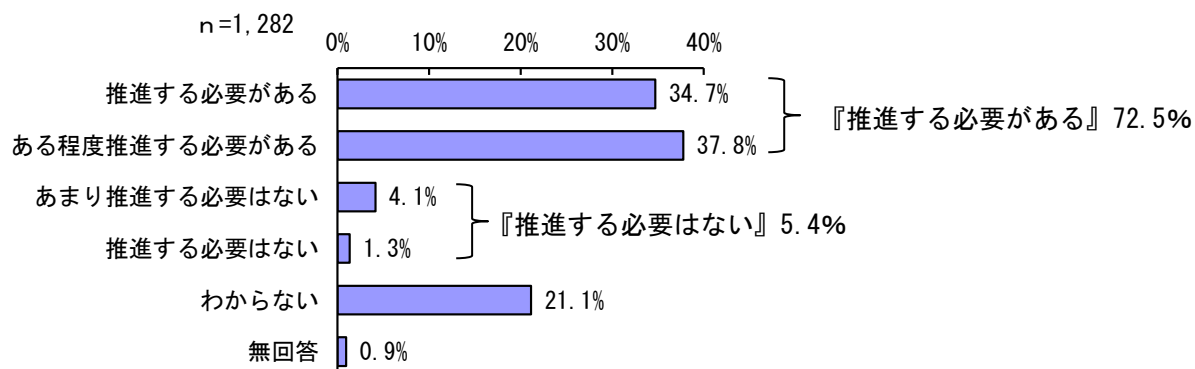
(3) 協働のまちづくり

「協働」のまちづくりが進んでいると思うかについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』が 18.1%と、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』が『そう思う』を大きく上回っています。



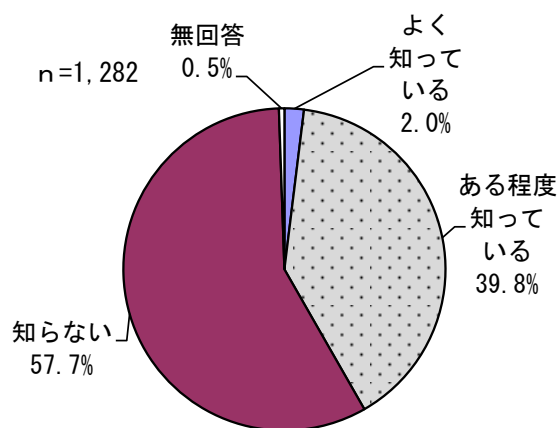
(4) 公共施設の多機能化

公共施設の計画的かつ効率的効果的な修繕や、建て替えの際の多機能化について、「推進する必要がある」と「ある程度推進する必要がある」を合わせた『推進する必要がある』は7割を超えています。



(5) 市の財政状況の認知度

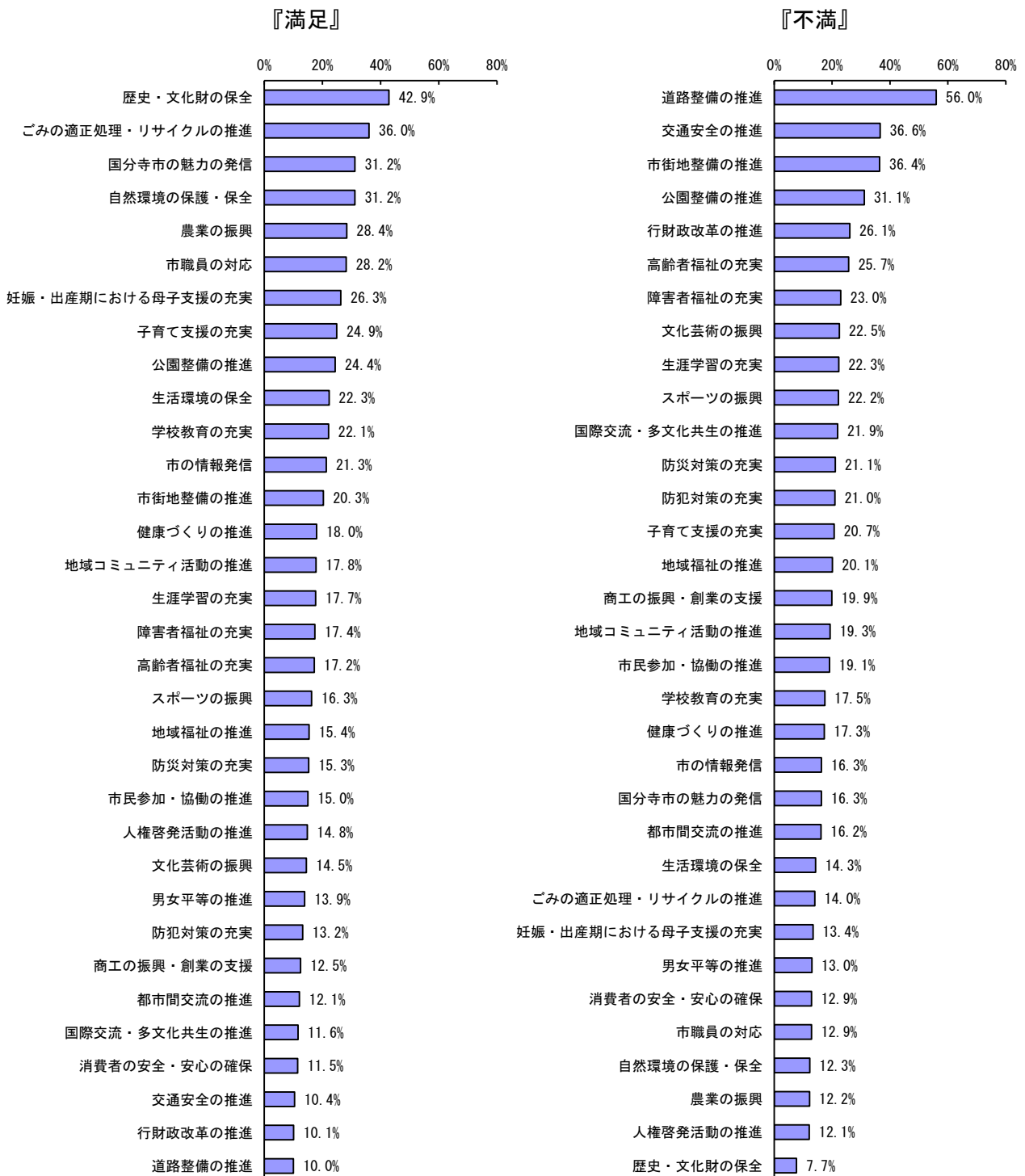
市の財政状況の認知度は、「知らない」が57.7%と5割半ばを超えて高く、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた『知っている』は41.8%と4割を超えています。



◇ 取組への満足度・重要度

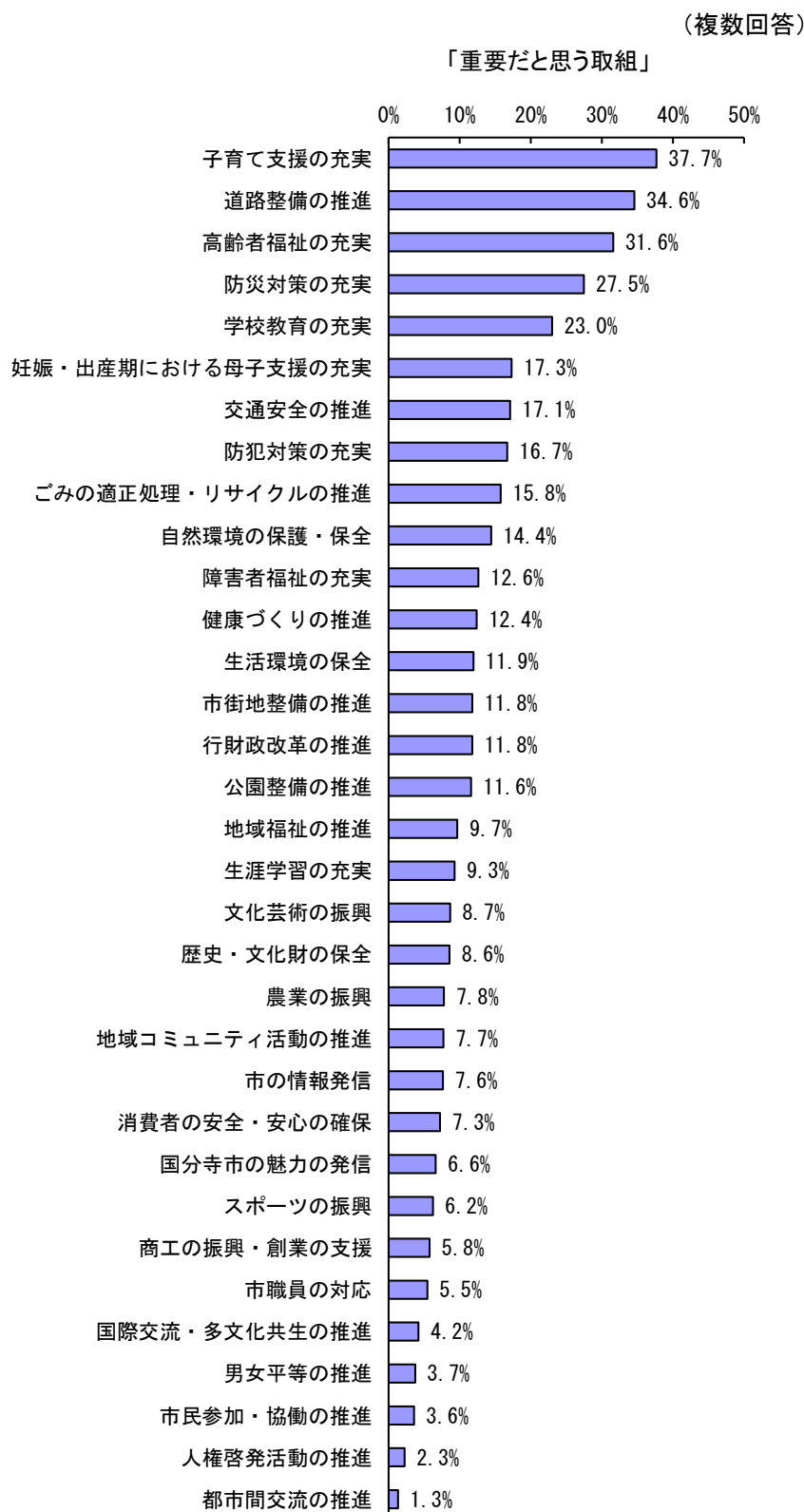
(1) 取組への満足度

33項目に分類した現在の市の取組について、「わからない」と「無回答」を除いて満足度を算出したところ、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は、[歴史・文化財の保全]が42.9%と4割を超えて最も高く、次いで[ごみの適正処理・リサイクルの推進]、[国分寺市の魅力の発信]、[自然環境の保護・保全]と続いています。一方、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は、[道路整備の推進]が56.0%と5割半ばを超えて最も高く、次いで[交通安全の推進]、[市街地整備の推進]と道路・交通に関する不満が高い傾向にあります。



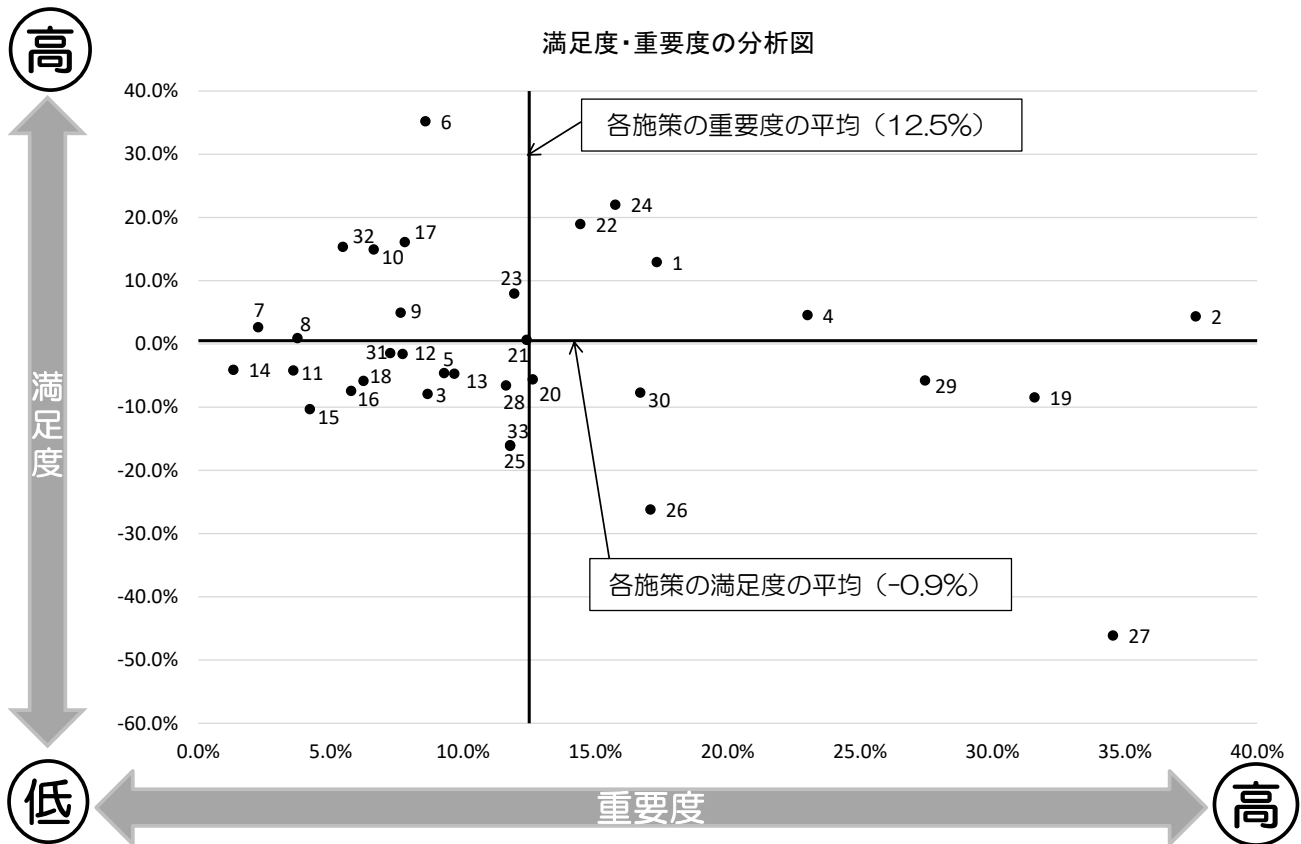
(2) 取組の重要度

33 項目のうち重要だと思う取組は、[子育て支援の充実]、[道路整備の推進]、[高齢者福祉の充実] が3割を超えて高くなっています。一方、重要度が低い取組は、[都市間交流の推進] が1.3%、[人権啓発活動の推進] が2.3%となっています。



(3) 満足度・重要度分析図

33 項目の満足度・重要度の分布を見ると、満足度は低いが重要度は高いものとして、高齢者・障害者の福祉や道路・交通、防災・防犯分野の取組が分布しています。



＜満足度高・重要度低＞		＜満足度高・重要度高＞	
6	歴史・文化財の保全	1	妊娠・出産期における母子支援の充実
7	人権啓発活動の推進	2	子育て支援の充実
8	男女平等の推進	4	学校教育の充実
9	市の情報発信	22	自然環境の保護・保全
10	国分寺市の魅力の発信	24	ごみの適正処理・リサイクルの推進
17	農業の振興		
21	健康づくりの推進		
23	生活環境の保全		
32	市職員の対応		
＜満足度低・重要度低＞		＜満足度低・重要度高＞	
3	文化芸術の振興	19	高齢者福祉の充実
5	生涯学習の充実	20	障害者福祉の充実
11	市民参加・協働の推進	26	交通安全の推進
12	地域コミュニティ活動の推進	27	道路整備の推進
13	地域福祉の推進	29	防災対策の充実
14	都市間交流の推進	30	防犯対策の充実
15	国際交流・多文化共生の推進		
16	商工の振興・創業の支援		
18	スポーツの振興		
25	市街地整備の推進		
28	公園整備の推進		
31	消費者の安全・安心の確保		
33	行財政改革の推進		

令和2年度国分寺市市民アンケート調査報告書
【概要版】

(令和2年8月)

発行者 / 国分寺市

編集 / 国分寺市政策部政策経営課

〒185-8501 東京都国分寺市戸倉1丁目6番地1

TEL:042-325-0111 (代表)